

第1問 源流思想

▶ 出題のねらい

源流思想分野から、古代ギリシア、啓示宗教、仏教、中国思想と、幅広く出題した。教科書に記載されている人物、用語、事項、それらの知識・理解に加えて読解力と総合的思考力を求めている。受験勉強の基本は基礎学力である。教科書を中心とした知識・理解はもちろんのこと、思想内容や有名な言葉、エピソードなど広く学んでもらいたい。

▶ 解説

問1 正解は②。

② ソクラテスは、自らの無知を自覚すること(無知の知)を哲学的出発点とし、大切なことは「ただ生きるのではなく、善く生きること」であり、それは魂のアレテー(徳)を持つこと(魂への配慮)であるとした。人間が求めるべき徳とは魂の善さであり、具体的には勇気や正義などである。ソクラテスは徳を身につけるには、それらについて知ること(「徳は知なり」、知徳合一)が不可欠であるとした。そこで、ソクラテスはロゴス(言葉・理性)を交わすことにより、普遍的真理に達しようと考えた。それが問答法である。また、ソクラテスは知っているとは行えること(知行合一)であるとし、真の知は実践につながると説いた。

① 「徳だけは万人が知りうる普遍的なものである」はゴルギアスの説明としては不適當である。ゴルギアスは、「人間は万物の尺度である」と述べたプロタゴラスとともにソフィストを代表する人物。「何もない、あるとしても人間には把握できない、把握できたとしても伝えられない」という懐疑主義、否定的相対主義を説いた。ソフィストは、アテネの民主制の発達を背景に、人間と社会の問題に取り組み、絶対的真理を否定した。そして、真理の基準は個々人の主観にある(相対主義)と主張し、知識や価値はそれを認識する人間との関係によって変化するとした。この真意は、真理の相対主義と伝統や慣習にとらわれない批判精神にある。

③ 「人間の徳とは万物の理を窮めることで生じる」は朱子の思想である。王陽明は陽明学の確立者で、人間の心には生まれつき善悪の判断をする能力(良知)がそなわっていると説いた。彼によれば、生まれながらの心がそのまま理である(心即理)とし、主体的に良知を働かせて生きること(致良知)により状況に応じた善を実現すべきである

と説いた。また、「知は行の始めであり、行は知の完成である」とは、知ることと行うことは良知の両面であり、真の知は行為を伴う(知行合一)ものという立場を示す言葉である。

④ 「普遍的な実体を持つものはない」は、仏教の無我の思想あるいは縁起の法である。アウグスティヌスはキリスト教の教父哲学を代表する人物で、カトリックの教義の基礎を作った神学者である。彼はパウロの思想を継承し、三元徳(信仰・希望・愛)を唱えた。また、救いは神の恩寵によってのみもたらされると説いた。アウグスティヌスによれば、恩寵は神の意志により予め定められており(恩寵予定説)、身体的欲望に流され、悪へと傾かざるを得ない人間はただ神の愛によってのみ救われる。

問2 正解は③。

文献資料の『ニコマコス倫理学』はアリストテレスの主著で、『形而上学』と並んで過去のセンター試験において頻出だった著作である。会話文は、文献資料とアリストテレスの「徳」についての思想に関する解説文を参考に、二人の生徒が文献資料の【あ】に入る語を考察したものである。設問のポイントはエートス(習性・倫理)的徳である。

- a 資料文の「【あ】という言葉から少しく転化した倫理的という名称」、会話文において、解説文の「知性が感情や欲望を制御し」を用いて推論しているところから「習慣づける」が導き出せる。「啓示される」は宗教・信仰に関するものである。
- b アリストテレスの立場は、プラトンの理想主義に対して、現実主義とされる。解説文の「日常生活においては」、会話文の「人間の行為と態度」がヒントになる。
- c ギリシア語の「エートス」は、「習慣」と「倫理」の意味がある。アリストテレスは、現実主義の立場から、知性の働きの善さである知性的徳と感情・欲望・意志に関わるエートス(習性・倫理)的徳を論じている。知性的徳には、観想(テオリア)、思慮(フロネーシス)、知恵(ソフィア)、技術(テクネー)などがある一方、エートス的徳とは日常生活における徳で、生まれながらにそなわっているものではなく、習慣づけによって形成される。エートス(習性・倫理)的徳の中で最も大切なのが、正義と友愛(フィリア)である。アリストテレスは『政治学』の中で、正義には正しい行為をなす状態にあること(法の遵守など)の全体的正義と個々の状況や関係における「公正」である部分的正義を説き、部分的正義には、配分的正義と調整的正義が

あるとした。また、友愛については、「快樂」、「利益」、「善さ」によるものの3つに分け、善に基づく友愛を重んじ、人間の善さを互いに発揮することによって生まれるとした。なお、アリストテレスによれば、**最高善**は幸福であり、理性的存在である人間にとっての幸福とは、実利的・実目的を離れ、純粋に真理を考察する**観想(テオリア)**の生活であり、テオリアの究極の対象は永遠不変の神である。神は万物を動かす運動の第一原因であり、不動の動者である神を観想することが人間にとって最高の幸福である。

問3 3 正解は②。

- ② **老子**は道家の祖。道家は春秋戦国時代に成立、確立した諸子百家の一つで、儒家とともに中国を代表する思想である。老子の後は**莊子**に受け継がれた。道家は儒家の説く道徳や規範意識を批判し、人為的な判断や行為を捨て、自然の営みに従って生きることを説いた。老子によれば、万物を生み出す根源は人知を超え、言葉で表現できない**無**であり、仮に名づけて**道(タオ)**という。人間の本来の在り方は道に従い、作為を捨てて自然に生きること(**無為自然**)であり、他と争わず何事にも何ものにも逆らわずに水のようにしなやかにあること(**柔弱謙下**)を説いた。
- ① 「人間の本性は善であるとし……人間性が形成される」は孟子の思想である。**荀子**は儒家の思想家で、孟子とともに、**孔子**を祖とする儒家思想を継承した。荀子は人間の本性を悪と捉え(**性悪説**)、**礼**(仁の具体的表現・行為)を重視し、外的教化による規範意識がよりよい人間性を形成するとした。
- ③ 「身分にかかわらず万人が救済される」はバラモン教の教えではない。バラモン教は古代インドの民族宗教で、自然崇拝の多神教である。バラモンとはヴァルナ(種姓)とジャーティ(出自)に基づくカーストの最高位である宗教階級のことであり、バラモン教とはバラモンの教えのことである。古代インドでは**輪廻**(生命の再生・転生)が信じられ、輪廻から解放された永遠の安らぎ(**解脱**)が求められた。
- ④ 「神・人・教会の三位一体」が誤り。キリスト教(カトリック)では、神(父)・子(キリスト)・聖霊の**三位一体**が説かれ、三者は三つの異なる表れ方であるが、その本質は一つであるとされる。

問4 4 正解は①。

プラトンの政治論は「哲人政治(哲人王)」と呼ばれる。彼は、**知恵**、**勇気**、**節制**という3つの徳が

調和した時、人間の持つ魂は**正義**の徳を持つとし、これらの徳は**四元徳**と呼ばれる。さらにこれを国家に適用し、知恵は統治者、勇気は軍人(防衛者)、節制は生産者が担うと、正義を実現する理想国家が成立するとした。知恵を担うのが統治者(王)であるから、哲学者が王となるか、王が哲学するかのどちらかが求められる。

孟子は、**孔子**の**徳治主義**を継承し、仁政を行う王者の政治を理想とした。このことを**王道(王道政治)**という。孟子は、武力による支配を**霸道**と呼んで否定し、為政者の徳(**仁義**)に基づく人民本位の政治を理想とした。また、為政者がその本来の在り方を失った時、天は天命を下し、為政者を交替させる。このことを**易姓革命**という。

なお、孟子は人間の本性が善である(**性善説**)とする立場から、生まれながらに持つ善なる心(**惻隠の心・羞惡の心・辞讓の心・是非の心**)を拡充させ、人格を修養すると、**四徳(仁・義・礼・智)**が実現すると説いた。また、5つの人間関係における在り方である**五倫**(父子の**親**、君臣の**義**、夫婦の**別**、長幼の**序**、朋友の**信**)を説いている。

- ① 「哲学者が王となるか権力者が哲学すること」は哲人政治(哲人王)、「徳を身につけ、仁に基づいて政治を行う君主が王者である」は王道(王道政治)である。
- ② 「孟子は徳を身につけ、武力を用いて政治を行う君主が王者であるとしている」が不適当である。
- ③ 「プラトンは政治的権力と哲学的精神とが一体化されると不幸が止むことはないとし」が不適当である。
- ④ 「プラトンは政治的権力と哲学的精神とが一体化されると不幸が止むことはないとし」も「孟子は徳を身につけ、武力を用いず仁に基づいて政治を行う君主が覇者であるとしている」も不適当である。

整理 徳をめぐる古代の思想

ソクラテス	知徳合一, 知行合一, 福德一致
プラトン	四元徳(知恵, 勇氣, 節制, 正義)
アリストテレス	知性的徳, テオリア, 思慮, 倫理的(エトスの)徳, 中庸, 友愛, 正義
キリスト教	三元徳(信仰, 希望, 愛)
イスラーム教	六信・五行
ブッダ	中道, 知恵, 慈悲
大乘仏教	六波羅蜜(布施, 持戒, 忍辱, 精進, 禪定, 智恵)
孔子	仁, 礼, 克己, 忠恕, 孝悌, 徳治
孟子	四徳(仁, 義, 礼, 智) 五倫(親, 義, 別, 序, 信)
荀子	礼
朱子	理, 居敬, 修身
王陽明	良知良能, 知行合一

第2問 日本思想分野**▶ 出題のねらい**

日本思想からの出題であるが、源流思想などに関連づけて理解することが求められる。日本思想は外来思想の影響を受けていることが多いため、当然のことながら仏教思想や儒教思想と関連づけて理解することが必要となり、また古代ギリシアをはじめとする西洋の源流思想とも比較した上での理解が求められる。

▶ 解説

問1 **5** 正解は④。

この絵に描かれているのは、時宗の「踊り念仏」である。踊り念仏は、平安時代中期の空也から始まったとされ、一遍は「空也は我が先達なり」と称えている。平安時代末期、末法思想を受けて浄土信仰が民衆に広がり、南無阿弥陀仏の念仏により救われると説く浄土教が発展した。浄土宗を開いた法然は専修念仏を説き、仏の他力を信じ念仏を唱えることを主張した。弟子の親鸞は、師の教えを発展させ、浄土真宗を開き、絶対他力の立場から、すべては仏のはからいによると、自然法爾を説いた。時宗を開いた一遍も、称名念仏を説き、念仏を唱えながら踊る踊り念仏を広めた。

b 人間の努力＝自力を捨て、ひたすら仏のはからい＝他力(慈悲の働き)にまかせる「自然法爾」の考え方である。絵の背景となる浄土信仰の説明として正しい。

イ 煩惱具足の凡夫が往生する行は念仏であり、あらゆる凡夫は齊しく、念仏できる道を歩むとして、

自力を否定し、他力が説かれている。浄土信仰に関する資料として正しい。

a 坐禅による悟りを説く禅宗である。禅宗は自らの努力によって悟りを開こうとする自力信仰の考え方であり、日本には、栄西が臨済宗、道元が曹洞宗を伝えた。

ア 資料は、臨済宗を開いた栄西の『興禅護国論』である。臨済宗は坐禅と同時に公案を与えて禅問答を行うが、ここでは、能力の有無にかかわらず、ひたすら坐禅することで仏道を究められると説かれている。

問2 **6** 正解は②。

資料は石田梅岩の『都鄙問答』である。あーYの組合せが正しい。

あ 石田梅岩は江戸時代の思想家で、神道・儒教・仏教を融合した石門心学を創設した。彼は士農工商という身分秩序を社会的分業と捉え、封建制の枠の中で、商人の利潤追求を肯定した。取り上げた文章は「百姓ならば……」とあるが、梅岩は、百姓の役割、武士の役割を説き、同様に分業体制における商人の役割を説いて、商人の利潤追求を正当化した。梅岩は、商人の道をなす中心的な徳目として正直・儉約を挙げた。正直は正当な仕方では利益を上げることで、儉約は単に節約するだけでなく、物と人を有効に生かす原理である。

Y 梅岩の主張で、商人の社会的責任を強調した上で、商人の利益を正当な報酬と捉え、罪悪視されてきた営利活動を倫理的に肯定したものである。

い 安藤昌益は江戸時代の思想家で、農民の立場からの思想を説いた。昌益は、すべての人が直接農業に従事する自給自足の理想社会を説き、階級差別と貧富の差を解消することを主張した。反封建的な思想である点で、石田梅岩とは対照的である。

X 安藤昌益の主張で、自然世についての記述である。昌益は封建的差別と搾取の社会(法世)を批判し、すべての人々が直接農業に従事する万人直耕を主張した。

整理 江戸時代における民衆の思想

石田梅岩	石門心学, 正直・儉約
井原西鶴	浮世草子
近松門左衛門	義理・人情
安藤昌益	自然世, 法世, 万人直耕
二宮尊徳	天道・人道, 報徳思想, 分度・推譲

問3 7 正解は①。

- ① ここでは和辻哲郎による「人間の学」について記されている。和辻によれば、人間とは個人のみを示すものではなく、同時に人と人との「間柄」を示すものであり、個人と社会は人間そのものの2つの側面である。彼は、この「二重性格」の中に倫理学を樹立しようとした。和辻は、人間存在の在り方を「間柄的存在」と呼び、倫理は個人と社会との相互作用において成立すると考え、この作用がなくなると利己主義や全体主義を招くと説いた。
- ② ストア派のゼノンは、ポリスが没落したヘレニズム時代の思想家である。自らの感情や欲望を抑制する禁欲主義に基づき、外界からの刺激によって心を乱されないアパテイアを理想として、「自然(理性)に従って生きる」ことを信条とした。
- ③ 荘子は、人間が人為的に分別した相対的な差別を超えた、万物が一体となった^{ひと}齊しい、ありのままの世界を万物斉同と呼んだ。無為自然の世界に自由で安らかに生きる境地(逍遙遊)を理想とし、この境地に生きる理想像を真人と呼んだ。
- ④ マルクスは、人間を類的存在として捉え、集団、そこにいる他者との関わりの中で生きる存在であると定義した。すなわち人間は個人としてのみ存在するのではない。その点において、和辻の倫理学・人間観に共通するものがあるが、他者との関わりにおける行為として本質的なものを労働とし、労働とその成果である生産が人間の喜びであるとしていることは読み取れない。なお、マルクスは、資本主義社会は労働の本質を喪失し(労働疎外)、労働が人間の本質であるから、それは人間性の喪失(人間疎外)であるとした。その克服は労働者の革命による資本主義社会の打倒と変革、すなわち社会主義の実現によりなされると説いた。

問4 8 正解は①。

- ① 徳富蘇峰についての記述である。徳富蘇峰は雑誌『国民之友』を創刊して「平民主義」を唱え、貴族・官僚を中心とした欧化主義を批判して、平民の立場からの近代化を説いた。日清戦争後は国家主義に転じ、平民主義から離れた。
- ② 三宅雪嶺ではなく、「二つのJ」を唱えた内村鑑三についての記述になっている。三宅雪嶺は、雑誌『日本人』を創刊して国粋主義を説いた。著書に『真善美日本人』がある。
- ③ 陸羯南ではなく、吉野作造についての記述になっている。陸羯南は、新聞『日本』を創刊し、国粋主義の立場から国民主義を唱えた。
- ④ 西村茂樹ではなく、大逆事件で処刑された幸徳

秋水についての記述となっている。西村茂樹は、西洋の技術を活用するには、土台として儒教道徳が必要であるとし、国粋主義の先駆けとされる。著書に『日本道徳論』がある。

第3問 西洋近現代思想分野

▶ 出題のねらい

Iでは「人生の幸福とは何か」をテーマとしている。文献資料、視覚資料の読解を通じて、幸福についての考察を求めた。IIでは、自己を見つめる生き方に関連して、実存主義の哲学者についての考察を求めた。この第3問は、複数の分野にまたがる融合型の問題であり、多くの資料に基づく速やかな資料読解能力や思考力・判断力の適応が求められる。基本的知識に基づいた思考が求められる出題である。

▶ 解説

問1 9 正解は②。

出典はシェリングの『人間的自由の本質』。シェリングはドイツ観念論の哲学者で、精神と自然は同一であり、自然も人間も絶対者(神)から生まれたとした。また、彼によれば、絶対者は一切から自由な存在であり、それでいて一切を愛で貫き、統一している存在である。なお、神を絶対者と表現したのはシェリングである。空欄【 X 】に入る適語は「自由」である。

ア 正文。エラスムスは『痴愚神礼賛』で、当時の教会・聖職者・権力者の腐敗、墮落をユーモアあふれる文章で風刺した。エラスムスは人間の自由意志を認め、自由意志を認めないルターと論争を行った。

ウ 正文。アダム・スミスは『国富論』の中で、国民の富の源泉は労働にあり、社会の発展は労働による生産力の向上によりもたらされ、その推進のためには政府が干渉しない自由放任の経済活動が最善であるとした。「見えざる手」である需要と供給の市場原理により経済の自由競争は調整され、社会全体が繁榮すると述べており、自由主義経済を推進する現代の「小さな政府」の構想の基になっている。

イ 誤文。デューイはアメリカのプラグマティズムの完成者である。デューイは、概念や理論、思想体系は道具であって、それらの価値はその利用の結果に現れる作業能力のうちにある、すなわちそれらを道具として用いた結果もたらされた有用性にあるとした。文中の2行目の【 X 】は「利益」

が適語となり、「自由」ではない。また「実用性にかかわらず」がデュエーイの思想として誤り。

- エ 誤文。クーンはアメリカの科学史家であり、パラダイム(枠組み)という概念で自然科学の展開を論じた。クーンは、自然科学における理論の変化は、パラダイムの変化によるものと解釈されるとし、科学革命は現実よりも正しいものへと進むのではなく、偶発的・変則的要因あるいは社会的要因による影響が大きいとした。文中の1行目から2行目にかけての文は、「……偶然的・変則的要因や社会的な【要因】に大きく影響される……」であり、【 X 】は「要因」であって、「自由」ではない。

問2 10 正解は③。

出典はミシェル・フーコーの著作である。フーコーの唱える「狂気」は、非理性ではなく、宗教的権威や社会的権力の側から、近代的秩序を逸脱するものとして排斥されたものである。

- ③ 誤文。19世紀オランダの画家、ゴッホをモチーフとして述べている。ゴッホは日本の浮世絵からも影響を受け、鮮やかな色使いと絵画タッチで印象派の中でも際立った個性を放っているが、生前はその絵画内容はまったく理解されず、絵が売れずに貧困に苦しんだ。③は「生前から高く評価され」とあるので、狂気の例ではない。
- ① 正文。18世紀フランスの女性運動家の先駆けとなったオランプ・ド・グージュをモチーフにして述べている。グージュは、フランス人権宣言は男性だけのものであると指摘し、女性の権利を主張した。しかし、当時の権力の中枢にいたジャコバン派などにとっては、彼女の主張は都合が悪いものであったため、彼女はギロチンで殺された。この人物について「倫理」で扱われることはないが、文献資料と解説から「狂気」とされていたことがうかがえる。
- ② 正文。19世紀ドイツの哲学者ニーチェをモチーフとして述べている。ニーチェは、人間がニヒリズムに陥った原因はキリスト教の「奴隷的道德」とソクラテス以降のギリシア思想にあるとした。ヨーロッパの理性の根源をなしているギリシア哲学と19世紀にも依然として影響力を持っていたキリスト教を真正面から批判したため、ニーチェの思想は当時の人々には理解されなかった。
- ④ 正文。16世紀のイタリアの科学者ジョルダノ・ブルーノをモチーフにして述べている。ブルーノはコペルニクスが主張した地動説を支持し、宇宙の中心には生成消滅する世界があるだけであ

ると主張したが、これは当時のキリスト教会の教えとは異なるものであったため異端視され、火あぶりとなった。

なお、フーコーは『狂気の歴史』の中で、ギリシア時代から中世に至るまでの近代以前においては、**狂気は理性を超えた神がかり的なもの**、神に近すぎたもので、とるに足らない存在の人間に対して、より根源的なものを啓示してくれる重要な存在として認められていたとしている。そして、近世以降は権力者にとって都合の悪いものや、社会の中で生産に役立たないとされた弱者は、非理性的な「狂気」として集団から排除されたと述べている。

問3 11 正解は②。

アー a キルケゴールが入る。レポートの文中で「人がいかに生きるべきかという問いに対する答えは、それぞれ各人の主体的な真理に関連して得られるものである。例えば人生に絶望し、自己を喪失している状況に対して」と述べていることから導き出せる。キルケゴールは、ヘーゲルを中心とする「人間とは～であり」、「人間は～として生きるべきである」という客観性・普遍性を強調した哲学に反対し、そもそも人間は一人一人固有の存在であり、一律に概念規制される本質存在ではなく、人間はここに存在することそのものに意味がある現実的存在、すなわち**実存**であるとした。その上で、人間は生きている限り、選択・決断を迫られるが、ここぞという重要な決断においては不安が生じ、結果として苦悩や絶望に打ちひしがれることになる。キルケゴールは、孤独と絶望の中で自分を支えてくれるものとして「神」と出会い、真の信仰者にだけ永遠の世界から現実の世界に現れた神の前に「**単独者**」として生きる道を選べとし、実存主義の開拓者となった。

イー c サルトルが入る。レポートの文中で「人間は他者との関係なくしては生きることができず、集団に属し、現実社会に積極的に参加して、自由な意志決定を行わねばならない」と述べていることから導き出せる。サルトルは、人間は予め定められている存在ではなく、自らの意志と力により、自己を作り上げていく存在であり、現実ここにすることが本質に先立っており(**実存が本質に先立つ**)、そこに人格の尊厳がある、とした。さらに、自己が自己に対して真摯に向き合うとともに、人間は他者との関わりの中で生きていく存在であるから、自己を社会に投げ込んで社会の中に自己を拘束し(**アンガージュマン：社会参加**)、自己の

意志や態度が全人類に(誰かの人生に)影響をおよぼすことを自覚して、責任を持って自由な決定を行うべきである、とした。

- b メルロ＝ポンティはフランスの実存主義哲学者で、人間の身体性に注目し、身体は物体であるとともに意識が浸透したものであると説いた。

問4 12 正解は②。

- ② ヤスパーズが入る。レポートの文中で「人は自己の有限性や無力さを知り、限界状況に陥ることになった」から導き出せる。ヤスパーズによれば、我々は、死、苦悩、闘争、責罪など、日常においてしばしば人間の力のおよばない**限界状況**に陥る。人間はその限界状況の中で、初めてありのままの自分の姿が見え、自己の有限性や無力さに気づく。その時に、世界と自己のすべてを支え、包み込む包括者に会おう、と述べている。
- ① ハイデガーは、ドイツの実存主義哲学者で、存在そのものを探究した。彼は、人間の本来的存在は日常性に埋没した「**ダス・マン(ひと)**」を超克し、他者とともにある「**世界内存在**」、また、自らが「**死へ向かう存在**」であることと向き合う「**ダーザイン(現存在)**」として生きることであると説いた。
- ③ カミュは、フランスの実存主義文学者・小説家で、人間は誰もが多少かれ少なかれ「不条理」の中で生きているとし、その中にあっても自分らしく生きることの意味を持つ存在であると説いた。
- ④ フッサールは現象学を唱えたドイツの哲学者。ハイデガーの師として知られる。現象学では、意識の外に世界が実在するという素朴な日常的態度を、一旦カッコに入れて停止する(**エポケー**：現象学的判断停止)。そして、意識に現れる現象をありのままに描写し、考察することを説いた。

第4問 青年期・現代社会分野

▶ 出題のねらい

青年期と現代社会分野からの出題である。Ⅰは、青年期の心理に関して出題した。教科書や資料集・用語集から青年期の心理に関する基本的事項と重要事項を正確に理解し、習得してほしい。また、具体例に即した応用問題が出題されるのが特徴である。Ⅱは、生徒の課題探究の成果の発表という形式で、西洋近現代思想と関連させて現代社会の諸問題を出題した。

▶ 解説

問1 13 正解は②。

エリクソンが唱えた**自我同一性(アイデンティティ)**の理解を具体的に問う問題。

- ② 自我同一性とは、自己が自己であるという自覚を持つことを意味する。この定義には、過去から現在までの時間的連続において自己が自己であるという自覚を持ち続けることを意味し、この自覚は、社会や集団における自己の役割を自覚することで深まるものである。
- ① 「集団や他者との関わりを持たないようにしている」が不適当。自我同一性の確立は社会や集団における自己の役割の自覚によって深まり、自己を成長させる契機となる。
- ③ 「自己を貫くためには他者の意見は気にしないようにしている」が不適当。自我同一性の確立は、社会や集団において自己が承認されることによって自己の役割を自覚し、自己の成長の契機となる。
- ④ 「いまだそれを見つけれずにいる」から、自我同一性の確立を求めているが、実現しているとは言えない。

なお、**自我同一性拡散の危機**とは、社会や集団における帰属意識を喪失し、自己が自己であることを見失う心的状態である。

問2 14 正解は④。

下線部の文意は、パソコンの「知は力なり」の考え方を無条件に地球環境問題に適用してはならないということである。この文意を踏まえて選択肢の適否を判断する必要がある。

- ④ **SDGs**は2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」の略語であり、環境保護と経済成長(開発)の両立を図ることを基本原則にしているのが正しい。17の開発目標には、貧困・飢餓をなくす、格差是正、安全な水とトイレ、健康と福祉の享受、質の高い教育、ジェンダー平等、クリーンエネルギー、働きがいと経済成長、産業・技術革新の基盤整備等が含まれる。
- ① 1997年に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議を、一般的には地球温暖化防止京都会議と呼び、この会議で採択された議定書を**京都議定書**という。二酸化炭素など6種類の温室効果ガスの排出削減目標について法的拘束力を持つ規定として定めるが、議定書から離脱したアメリカをはじめ、目標を達成しなかった国も少なくないので誤りである。
- ② **予防原則**は1992年の地球サミットの「リオ宣言第15原則」として定められた。環境に関し、重大

で取り返しがつかない被害を与える恐れがあれば、科学的に確実な根拠がなくても予め規制措置を講ずることを認めるもので、持続可能な社会へ向けての基本原則となった。したがって、本文の「人間の行為が環境を破壊する恐れがあると立証された場合」に予防原則の適用を認めるという説明は誤りである。

- ③ 2002年にヨハネスブルクで開かれた環境開発サミットで採択されたのは「リオ宣言」ではなく、持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言である。このサミットでは、1992年の地球サミットで採択されたアジェンダ21の成果を検証し、具体策が議論されたが、ここでも環境保護を推進する先進国と開発を優先する途上国の間で意見の対立が見られた。

問3 (1) 15 正解は②。

- ② 誤文。デカルトは大陸合理論の祖であり、イギリス経験論の哲学者ではない。記述は、物体の実在性を否定する唯心論を説いたバークリーについてのものである。
- ① 正文。ロックは、生まれつきの人間の心は「タブラ・ラサ(白紙)」であるとして、すべての認識は経験に基づくとした。
- ③ 正文。ヒュームは経験論を徹底させ、経験の外にあるものは認識できないという懐疑論をとり、心さえも「知覚の束」にすぎないとした。この思想はカントに衝撃を与え、ドイツ観念論が成立するきっかけとなった。
- ④ 正文。ベンサムは量的功利主義、ミルは質的功利主義をとる。理性ではなく「快」「不快」という知覚を基準とする点では、イギリス功利主義は経験論の伝統を受け継いでいる。

(2) 16 正解は④。

- ④ 生徒Xが作成したメモに、【疑問に思ったこと】として、「科学技術のめざましい進歩は、果たして持続可能な開発と『調和』できるのだろうか」という疑問を提起している。科学技術をそのまま無批判的に自然開発に適用することは環境破壊につながる危険性がある。住みよい環境を次世代に残すという世代間倫理の視点は環境倫理として不可欠であるので、生徒Yの主張と合致し、内容上も正しい。
- ① 自然法則の知識と、自然開発に必要な科学技術のどちらを尊重するかが問題となっているのではない。知識や技術を無批判的に自然開発に適用することの是非が問われているので、内容上誤りである。

- ② 生徒Xが作成したメモに、【この言葉から読み取れること】として、「知識と行動の一体化」が重視されていることが分かるが、自然環境保護を自然開発よりも重視すれば自然開発は不可能になるので、誤りである。環境保護と開発を両立させることが「持続可能な開発」の趣旨である。

- ③ 「人間生活をより豊かにする『力』を重視する」の説明は正しいが、このベーコンの「知は力なり」の考え方を無批判に自然開発に適用することへの疑問を生徒Yは指摘しているのであって、「人間が自然に働きかけて生活手段を獲得する労働と生産力の視点」については生徒Xおよび生徒Yの主張には含まれていないし、趣旨にも合致しないので内容上誤りである。

第5問 政治分野

▶ 出題のねらい

生徒の学習を題材として、主に政治分野に関して、基本的な理論・原則や現状について出題した。

▶ 解説

問1 17 正解は④。

生徒Z 文章はモンテスキューの『法の精神』からの抜粋である。権力の抑制と均衡が必要である理由を説明している。内容が共通している生徒はZである。

生徒W ルソーによる直接民主制の主張に近い。

生徒X ロックによる間接民主制(議会制民主主義)と抵抗権(革命権)の主張に近い。

生徒Y ホッブズによる社会契約説の主張に近い。

問2 18 正解は②。

国会での議決に関する問題である。

- ② 参議院で否決または60日以内に議決されなかった法律案を衆議院で再可決する場合の要件は、出席議員の3分の2以上の賛成である。このほか、国会で秘密会を開催するための議決の要件も出席議員の3分の2以上である。

① 衆議院において、内閣を不信任する場合は、出席議員の過半数の賛成が必要である。

③ 各院に設置されている常任委員会での可決のための要件は、出席議員の過半数である。

④ 各院における憲法改正の発議の議決は、出席議員ではなく、総議員の3分の2以上の賛成が必要である。

問3 19 正解は①。

道州制についての議論に関する問題である。道州制は、従来の都道府県の枠を超えて地方の再編成を行おうとするものであり、行政区画を道や州に分けて従来よりも高い自治権を付与しようとするものである。

A・D ア・イ 道州制に賛成の意見である。このほか、地方分権体制を構築するため、国家機能を集約し、強化を図るため、地域間格差を是正するため、などが賛成の理由として挙げられる。

B・C ウ・エ 道州制に反対の意見である。このほか、道州の中央と周辺部の格差が拡大する、国家機能が低下する、などが反対の理由として挙げられる。

問4 20 正解は⑥。

保守とリベラルの考え方の基本と、現在の日本における保守とリベラルの具体的な政策について分類する。Xには保守の考え方、Yにはリベラルの考え方が入る。リード文にもあるように、保守とリベラルの概念には幅があり、時代によって揺れがある。

X — イ — b 保守の考え方である。伝統的な家族制度を維持することを重視するため、選択的夫婦別姓などには慎重な立場をとる。

ア リベラルの考え方である。個人の自由・人権を重視するが、権力からの干渉をできるだけ排除する「国家からの自由」と、国による社会権の保障などを重視する「国家による自由」という二つの考え方がある。死刑制度への反対は前者に基づき、社会保障の拡大への賛成は後者に基づく。また、女性や外国人の社会進出など、多様性の拡大は、保守は慎重であり、リベラルは賛成の立場である。

問5 21 正解は③。

選挙に関する問題である。

③ 誤文。婦人参政権(女性の選挙権)は日本国憲法が施行される前の、1946年4月10日の衆議院議員総選挙で実現した。このとき1,380万人の女性が初めて投票し、39名の女性衆議院議員が誕生した。この国会で日本国憲法の制定が議論された。

① 正文。選挙権を持たない18歳未満の国民の選挙運動は公職選挙法で禁止されている。

② 正文。ネット選挙は解禁となったが、一般有権者が電子メールで投票を依頼することは禁止されている。

④ 正文。2015年改正、2016年施行の公職選挙法により、選挙権年齢が引き下げられ、満20歳未

満、満18歳以上の未成年者も有権者となった。なお、民法の改正により、2022年から18歳以上が成人となる。

問6 22 正解は⑥。

Aは行政の実権が元首である大統領にある例、Bは行政の実権が首相にある例、Cは二大政党制、Dは多党制である。

X アメリカが当てはまる。リベラルな民主党と保守的な共和党との二大政党制が確立している。アメリカ大統領選挙は間接選挙の形式だが、実質的には国民が直接大統領を選出している。

Y イギリスが当てはまる。リベラルな労働党と保守的な保守党との二大政党制だが、近年では第三党以下の勢力が伸びている。このため、二大政党のどちらも下院の過半数を得られないこと(ハングパーラメント)があり、連立政権となることがある。

Z ドイツが当てはまる。議会(連邦会議)で選ばれる大統領もいるが、儀礼的・象徴的な存在とされ、議院内閣制に分類される。ほとんどの議席は比例代表制に基づいて配分され、連立政権となることが常態化している。

第6問 近年の日本経済

▶ 出題のねらい

生徒の課題探究を題材として、近年の日本経済の動きを中心に、重要事項に関する基礎的・基本的な理解を確認する。

▶ 解説

問1 23 正解は④。

平成の経済関係の出来事についての知識を問う。以下、時代順に解説する。

イ 1997～1998年の出来事である。アジア通貨危機、消費税の5%への増税も重なり、1998年の日本はマイナス成長となった。

ウ 2001～2006年の出来事である。小泉純一郎内閣の下、郵政民営化法の成立など「小さな政府」を目指す政策が行われた。

ア 2010年の出来事である。2008年のリーマン・ショック後の出来事であり、ドルやユーロが下落して超円高となり、日本は輸出が冷え込んで不況が長期化した。

問2 24 正解は①。

供給曲線のシフトと供給の価格弾力性について
の問題である。

X 創設された間接税分だけ価格に上乗せされ、上
(左)方に供給曲線がシフトするため、 S_1 が当て
はまる。

Y 農産物などは生産調整が難しく、価格が高く
なっても供給量を急に増やすことはできない。こ
の場合、供給曲線は傾きが急なAとなる。

問3 25 正解は①。

折れ線グラフは公債依存度であり、一般会計歳
入に占める公債金の割合である。リーマン・
ショックの翌年の2009年度は50%を超え、新型
コロナウイルスの影響で2020年度の第二次補正
後は60%に迫る割合となっており、大きな不況
の際は一般会計税収を超える規模となっている。

国と地方を合わせた公債残高は1000兆円を超
えており、対GDP(国内総生産)比で200%に達
し、主要国中で最悪となっている。

問4 26 正解は②。

a 誤文。2020年度を除くと、リーマン・ショッ
クの翌年の2009年度が最も国債発行額が大きく、
東日本大震災の翌年の2012年度がそれに次ぐ。

b 正文。消費税が3%の税率で導入されたのは
1989年。1990年度から1993年度は特例公債(赤
字国債)が発行されなかった。しかし、バブル崩
壊後の不況が深刻化し、1994年度から再び特例
公債が発行されるようになっていく。

c 誤文。55年体制の崩壊は1993年の細川護熙内
閣の成立による。1998年以前は建設公債の発行
額が特例公債を上回ることが多かったが、1999
年以降はすべての年で特例公債の発行額が建設国
債を上回っている。

問5 27 正解は①。

社会保障政策に関する基本的な構造を理解する。

X 所得税が入る。所得再分配機能を持つ累進課税
制度は、所得税や相続税に採用されている。消費
税には、低所得者ほど負担感が大きくなる逆進性
があるとされる。

Y 資料2-1が入る。資料2-1は賦課方式の説明
である。賦課方式はインフレに強いが、少子高
齢化に弱いとされる。日本の年金は基本的に賦課
方式で運営されている。資料2-2は積立方式の
説明であり、少子高齢化に強いが、インフレに弱
いとされる。

問6 28 正解は④。

非正規雇用に関する現状を問う。

X 近年は、パート、アルバイト、派遣などの非正
規労働の割合は40%前後である。

Y bが女性である。男性は「正規の職員・従業員
の仕事がないから」の割合が高く、多くが正規雇
用を希望しているのに、不本意に非正規雇用に就
いていることが分かる。女性は「家事・育児・介
護等と両立しやすいから」の割合が高く、多くが
自ら非正規を選択しているとも言えるが、家事・
育児・介護等を女性が担わざるを得ない状況を示
しているとも言える。

第7問 国際関係

▶ 出題のねらい

国際政治と国際経済について出題した。報道で時事
問題に接する際は、その背景となる歴史・理論なども
確認しよう。

▶ 解説

問1 29 正解は②。

軍縮と軍事費の関係について問う。

X 1991年の湾岸戦争をきっかけとして、1992年
にPKO(国連平和維持活動)協力法が制定され、
自衛隊の海外派遣の根拠とされた。国際平和支援
法は2015年に平和安全法制の一環として制定さ
れた。PKOでなくても自衛隊の海外派遣を可能
とする一般法である。

Y 1954年、自衛隊とともに防衛庁が設立された。
第一次安倍晋三内閣の下で、2007年に防衛庁は
防衛省に格上げされた。

Z NGO(非政府組織)の主導によって、対人地雷
全面禁止条約やクラスター爆弾禁止条約が採択さ
れた。核兵器禁止条約もNGOの連合体である核
兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が主導したも
のである。

問2 30 正解は⑤。

生産面から見た各国のGDP(国内総生産)に関
する問題である。

a 正文。第一次産業は農林水産業である。中国の
生産額が最も大きい。

b 誤文。第二次産業は鉱・工業、建設業である。
日本の割合は28.5%で、中国の40.8%、ドイツの
30.5%より低い。

c 正文。第三次産業は卸売・小売業、運輸・通信

業、サービス業である。アメリカの割合は80.3%であり、50%を超えている。なお、51.7%の中国を含め、4か国すべてで50%を超えている。

問3 [31] 正解は①。

国際政治の出来事を年代で整理する。以下、時代順に解説する。

- ア 2001年にアメリカ同時多発テロが発生し、大きな被害が出た。アメリカは首謀者を匿っているとしてアフガニスタンを攻撃し、タリバン政権を倒した。
- イ 2010年、米ロ間で核軍縮条約の新START(新戦略兵器削減条約)が調印され、2011年に発効した。
- ウ 2014年、ロシアがウクライナのクリミア半島を併合した。これにより、ロシアはG8サミットから事実上追放された。
- エ 2018年、アメリカのトランプ大統領と北朝鮮の最高指導者金正恩キムジョンウンとの間で史上初の米朝首脳会談が開催された。

問4 [32] 正解は③。[33] 正解は⑤。

国際政治の資料として、2030年までの国際目標として設定されているSDGsに関する問題である。問題の会話文からも読み取れるように、それまで発展途上国の開発目標とされてきたMDGsを、SDGsは発展途上国以外にも広げ、文字通り世界共通の目標として設定している。

- ア — ③ SDGs(持続可能な開発目標)が当てはまる。SDGsは17のグローバル目標と、169の達成基準からなる。
- ① MDGs(国連ミレニアム開発目標)は、2000年の国連ミレニアムサミットで打ち出された。しかし目標達成には至らず、SDGsに受け継がれた。
- ② ESD(持続可能な開発のための教育)は、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルクサミット)」で日本やNGOにより提唱され、2005～2014年は「国連持続可能な開発のための教育の10年(国連ESDの10年)」とされた。
- イ — ⑤ 「持続可能な開発」は、1992年の国連環境開発会議(地球サミット)のスローガンである。ブラジルのリオデジャネイロで開催され、リオ宣言やアジェンダ21などが採択された。「持続可能な開発」とは、将来世代の開発(成長)を妨げることがないように現在世代の開発を行う、という概念である。
- ④ 国連人間環境会議は、1972年にスウェーデン

のストックホルムで開催された。スローガンは「かけがえのない地球」である。

- ⑥ 国連資源特別総会は、第一次石油危機の翌年、1974年に開催され、資源ナショナリズムなどを定めた「NIEO(新国際経済秩序)樹立に関する宣言」を採択した。

写真協力／踊り念仏(イラスト)：当麻山 無量光寺